



chie ito.

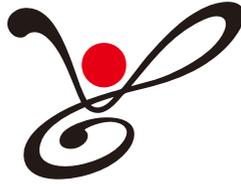
Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団

2023

5



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます  
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを  
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

---

オフィシャル・サプライヤー

---

**SONY**

**Rakuten**

**マルハニ**

**LOTTE**

**JP BANK** ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第984回サントリー定期シリーズ

5月10日(水) 19:00開演 サントリーホール

第154回東京オペラシティ定期シリーズ

5月12日(金) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第985回オーチャード定期演奏会

5月14日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

コンサートマスター：依田真宣

5/10

5/12

5/14

ラフマニノフ：幻想曲『岩』Op. 7 (約12分)

ラフマニノフ：交響詩『死の島』イ短調 Op. 29 (約20分)

— 休憩 (約15分) —

ラフマニノフ：交響的舞曲 Op. 45 (約38分)

- I. ノン・アレグロ
- II. アンダンテ・コン・モート(テンポ・ディ・ヴァルス)
- III. レント・アッサイーアレグロ・ヴィヴァーチェ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等創造支援事業(創造団体支援))  
独立行政法人日本芸術文化振興会(5/10)

協力：Bunkamura(5/14)



- ♪ 本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
- ♪ 演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
- ♪ 曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
- ♪ 演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ♪ 演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

## 出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

ミハイル・プレトニョフ

Mikhail Pletnev, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 特別客演指揮者

一言では説明できない多才な芸術家。ピアニスト、指揮者、作曲家として魔法のような才能で、世界中の聴衆を魅了している。1957年ロシアのアルハンゲリスク生まれ。1978年、21歳でチャイコフスキー国際コンクールのゴールド・メダルおよび第1位を受賞し、国際的な脚光を浴びる。驚くべき技巧、深い知性に裏づけられた演奏、完璧にコントロールされた美しい音色で、カリスマ的人気を誇る現代最高のピアニストの一人として活躍。

ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団ほか数々のオーケストラを指揮。ボリショイ・オペラでの『スペードの女王』指揮で大成功を収めているほか、コンサート形式のオペラ指揮も行っている。

1990年ロシア内外の個人、団体より資金を得、ロシア史上初めて国家から独立したオーケストラとしてロシア・ナショナル管弦楽団(RNO)を設立。指揮者として東京フィルハーモニー交響楽団には2003年7月に初めて客演、以来定期的に招かれ、2015年4月より特別客演指揮者に就任。2022年には新たなオーケストラ、ラフマニノフ国際管弦楽団(RIO)を創設。

## 楽曲紹介

解説＝一柳富美子

2023年はラフマニノフ(1873年4月1日-1943年3月28日)の生誕150年かつ没後80年の二重アニヴァーサリーである。命日と誕生日に挟まれた3月30、31日にはラフマニノフ国際シンポジウムが開催され、筆者も論文を携えてモスクワまで参加した。ラフマニノフは、世界的にピアノ音楽の巨匠・20世紀No.1のピアニスト、ロシア国内では最高のロシア歌曲作家及び名指揮者として認知されているが、管弦楽作品にも傑作が揃っている。今回のプレトニョフの選曲は、その管弦楽作品の名手としてのラフマニノフに焦点が当てられていて、しかも、人気の交響曲第2番、第3番ではなく、初期から最晩年までの隠れた名曲が並んでいる。

### ラフマニノフ 幻想曲『岩』Op. 7

1893年夏の作曲。副題は英語からの重訳による誤訳で、正しくは《切り立った巖》とか《断崖》となる。「黄金色の雨雲が 一夜を過ごした/切り立った巨大な断崖の胸元で」で始まるレールモントフの詩の印象を受けて作曲したことに由来する。この詩の冒頭2行は本作品の題辞にもなっているが、作品自体は単に「切り立った断崖」と命名された。

この単一楽章の標題音楽的管弦楽曲は、同じ題辞を持つチャーホフの短編小説『旅路』からも触発されている。実際、ロシアの大自然を連想させる鬱蒼とした曲の雰囲気はレールモントフの『断崖』の世界を、曲の細部は老男と若い娘の出会いと別れを描いた短編『旅路』を音楽化している。当初は、この曲を大変気に入ったチャイコフスキーが初演の指揮台に立つことを約束していたが、コレラで急逝したために延期され、1894年4月1日にサフォーノフ指揮ロシア音楽協会オーケストラによって実現した。

曲は3つの主題を持つ序奏付きの自由な二部形式。序奏の低音域ユニゾンによる不気味な第1主題は「断崖」を表し、曲の後半で頻出する。フルート独奏の第2主題は陽光を浴びた黄金色の「雨雲」のテーマ、やや郷愁を帯びた歌謡的な第3主題はチェーホフの短編に基づく「実らぬ恋」を暗示している。第1部は第2、3主題が巧みに変奏・展開され、後半では立ちはだかる「断崖」の前に、「実らぬ恋」が首を垂れて、最後は静かに終わる。

【作曲年代】1893年 【初演】1894年4月1日、モスクワにて、ワシーリー・サフォーノフ指揮ロシア音楽協会オーケストラの演奏による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、大太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム)、ハーブ、弦楽5部

## ラフマニノフ

### 交響詩『死の島』イ短調 Op. 29

1897年3月の交響曲第1番初演失敗後、ラフマニノフは一時作曲を休んで指揮者に転向する。ここでも彼は唯一無二の才能を発揮、特に1904-06年のポリショイ劇場副指揮者時代は非常に充実していた。と同時に疲弊もした。加えて、1905年の第一次ロシア革命の余波が残るモスクワでの音楽活動が困難だと判断したラフマニノフは、作曲家として充電すべく、活動拠点をドレスデンへ移し、1909年4月までの3シーズンをこの地で過ごした。そんなドレスデン時代の最後を飾るのが、この交響詩《死者たちの島》（「死の島」も誤訳）である。

滞在中の1907年5月、「ゼボン・リュス」を主宰するディアギレフ(1872-1929)からパリの音楽祭への出演を依頼された。そのパリ滞在中に、ラフマニノフは画家ベックリン(1827-1901)の代表作「死の島」の白黒複製画と出会い、そこからインスピレーションを得て、1909年春にこの交響詩を完成させた。ベックリンは全部で5つの「死の島」を残しているが、ラフマニノフが見たのは広く普及した第3作のモノクロ銅板複製画で、後年、フルカラーの原画を見た時、「原画を先に見ていたら曲は生まれなかった」と語ったという。

三部形式、ラルゴ、イ短調、8分の5拍子。切れ目なく20分以上にも及ぶ大曲

には、白黒の版面に描かれた死の島、冥界の海、渡し舟、それを漕ぐ渡し守カローンの様子が幻想的に広がる。この5拍子は主部と再現部を一貫して支配し、舟の不気味な揺れや冥界の永遠性を表現している。5拍子のオスティナートには途中から「ドシドラ」「ドシドファ」といった4音モチーフが絡み合い、ロシアの吊いの鐘の音の断片になっていく。「ディエス・イレ」と結びつける解釈もあるが、4音モチーフは決して引用とはいえない。変ホ長調、4分の3拍子の中間部では、光明と穏やかさが垣間見えるが、それも束の間、再び短調に戻り、5拍子による冥界が再現されると、闇と恐怖は一層深まる。最後に「ディエス・イレ」が完全な形で現れるのかと思いきや、「ドシドラ・シソラファ・ソミファレ#・ミ」と我々の予想を裏切り、またしてもロシアの葬儀の終鐘となる。

2つの世界大戦を背景にベックリンの原画はドイツで大流行し、ヒトラーが執務室にも飾っていたことは有名であるが、それより10年早くラフマニノフがこの絵に惹かれたのは、第一次ロシア革命「血の日曜日事件」がきっかけだとロシアの学者たちは分析している。

【作曲年代】1909年 【初演】1909年4月18日、モスクワにて作曲者自身の指揮による  
 【楽器編成】フルート3(1番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル)、ハーブ、弦楽5部

## ラフマニノフ

### 交響的舞曲 Op. 45

ラフマニノフの、最後にして最高の傑作。欧州から再び合衆国へ本拠を移した翌1940年の夏、ピアニストとして多忙を極めていたラフマニノフは、新曲譜読みの代わりに突如作曲を始め、しかも異常なほどの短期集中で完成させた。タイトルは『交響的舞曲』。この曲名に決定する前は、各楽章に〈昼〉〈夕暮れ〉〈夜半〉という副題がついていたことから、これはラフマニノフの自伝的幻想曲か、或いは普遍的な人の半生を扱った作品と推測できる。

4つの楽章に人生を重ね合わせた『鐘』Op.35とは異なり、『交響的舞曲』には子供時代がなく、音楽はズバリ人生真只中の昼から始まる。タイトル通り、3

つの楽章は様々な舞曲のリズムで構成され、第1楽章はトッカータの要素が加わった行進曲、第2楽章はワルツ、終楽章はジークの動きが容易に見て取れる。自作の交響曲第1番、『音の絵』、交響曲第3番などの断片、生涯敬愛したリムスキー＝コルサコフの遺作オペラ『金鶏』との著しい類似、ロシアの様々な鐘の音、そして「ディエス・イレ」の処理法……と、まさにラフマニノフの音楽の集大成になっている。

**第1楽章:** ノン・アレグロ、ハ短調、4分の4拍子。三部形式。冒頭、弦が刻むマルカートのリズムに乗って、主部主題の断片「ソミドー」の移調形が木管によって控え目に提示され、やがてモチーフが集結して主題の全貌が力強く姿を現す。嬰ハ短調の牧歌的な中間部では、ロシア民謡を彷彿とさせる抒情的主題を典型的なジャズ楽器であるアルトサクスが朗々と歌い出す。この主題はコーダでも再現されて楽章を閉じる。

**第2楽章:** アンダンテ・コン・モート(テンポ・ディ・ヴァルス)、ト短調、8分の6拍子。複合三部形式。弱音器を付けた金管の不気味なファンファーレが3回奏された後、ヴァイオリン独奏がこの楽章の旋律要素を全て提示し、それを引き継いでイングリッシュ・ホルンが哀愁に満ちたワルツ主旋律を歌う。新たな主題で自由な調性の中間部を経て、縮小された再現部となる。

**第3楽章:** レント・アッサイ、ロ短調—アレグロ・ヴィヴァーチェ、ニ長調。三部形式。〈夜半〉の副題が付けられていた終楽章は、真夜中の黒ミサ、或いは世界の終末が暗示されているかのように、グレゴリオ聖歌「ディエス・イレ」的要素に満ちている。聖書の終末論に則って、鐘が正確に12回連打される。

楽章冒頭及び対旋律として現れる「ラソラファ・ソミファレ」は、ラフマニノフが愛好し続けた「ロシアの鐘の揺れ」を表現するもので、「ディエス・イレ」と酷似することからこれまで大きな誤解を受けてきた。1935年に音楽学者の講義を聴いて「ディエス・イレ」の歌詞や旋律の詳細を初めて知ったラフマニノフは、従来の誤解を解くべく使い分けを明確に提示している。ここでは中途半端な4音や8音ではなくキッチリ7音を原曲の音程関係通りに引用し、しかも原曲第二連の旋律まで丸ごと引用している箇所もある。中間部ではお得意の抒情と幻想の世界が繰り広げられ、力強い再現部を経て、まるで自らの音楽の総括を示すかのように、「ロシアの鐘の揺れ」と「ディエス・イレ」が絶妙に絡み合って、ジークに踊り狂う魔女達の夜会は終わる。

【作曲年代】1940年 【初演】1941年1月3日、フィラデルフィアにてユージン・オーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団の演奏による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、アルトサクソフォン、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム、鐘3、グロッケンシュピール、シロフォン)、ピアノ、ハープ、弦楽5部

5/10

5/12

5/14

ひとつやなぎ・ふみこ(音楽学)ノロシア音楽研究の第一人者。国際音楽学会ショスタコーヴィチ研究班アジア代表委員。ロシアオペラ・声楽・ピアノズムに特に造詣が深い。ロシア音楽研究会主宰。ロシアン・ピアノ・スクールin東京総合監修。研究・執筆、声楽指導、音楽通訳・翻訳・字幕を手掛け、邦訳したオペラ等の大曲だけでも50を超える。



©上野隆文

5月の定期演奏会では、生誕150年を迎える作曲家セルгей・ラフマニノフの生涯をたどって前・中・後期を代表する3作品を取り上げます。マエストロ・プレトニョフにお話を聞きました。

プレトニョフ(以下、「」内) 「私の先生の先生はイグムノフといってモスクワ音楽院の先生でした。イグムノフ先生はアレクサンドル・ジロティというラフマニノフの従兄にあたる人の弟子でした。ラフマニノフをチャイコフスキーに会わせたりしたのもジロティです。ジロティはリストの弟子で、リストからも可愛がられたそうです」

——ラフマニノフという人物をマエストロはどのようにご覧になりますか？

「大天才だと思います。ピアニストとしても素晴らしいし、現役で活躍しているピアニストにとっては神様のような存在。ホロヴィッツ、ミケランジェリといった、私たちが大ピアニストとして仰ぐような人たちが、さらにラフマニノフを尊敬していました。ラフマニノフ同様、歴史上尊敬される音楽家は多くが作曲家・ピアニスト・指揮者の3つの要素を持っています。たとえばバッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、リスト、ラフマニノフ、プロコフィエフ。一つの仕事に縛られずに仕事をできる人たちです。チャイコフスキーも指揮者としてはさほどでもなかったけれど自作を指揮しています。リムスキー＝コルサコフも自作を指揮しています。それからバルトーク、ショスタコーヴィチも。得手不得手はあるかもしれませんが、3つの要素を兼ね

備えているのがすぐれた音楽家なのかもしれません」

### ——ラフマニノフのオーケストラ作品について

「ラフマニノフが若く、ピアノ曲だけを書いていたころはピアノのことだけ考えればよかったわけですが、曲を書いていくうちにいろいろな楽器の知識も増えていきました。ラフマニノフの初期のオーケストラ曲はあまり良い曲ではないという面があるのですが、それは楽器の特性やオーケストラの特徴を知らずに書いていたところもあったと思います。それが後期の作品になると楽器の特性もよくわかったうえで、それを生かして書いていると感ぜられるようになっていきます。ラフマニノフが若いころの作品は、経験を積んでいくうちに彼自身も考えなおして、何度も書き直している作品があります。最初のオペラ『アレコ』(1892年作曲)もしばしば書き換えていたそうです」。

### ——ラフマニノフを育てた人々について

「チャイコフスキーは、ニコライ・ズヴェーレフ(19世紀ロシアのピアニスト、音楽教師)のところに住み込んで学んでいたまだ12、13歳のスクリャービンやラフマニノフと出会っています。ズヴェーレフはチャイコフスキーの友人だったので、チャイコフスキーがモスクワに来たときに家に招待して、教え子達の演奏を紹介しました。そこでスクリャービンとラフマニノフはチャイコフスキーに演奏を聴いてもらい、チャイコフスキーは人柄も良かったので「よく演奏できたね」と褒めたそうです。

それからチャイコフスキーだけでなく、ジロティの存在が大きいです。ラフマニノフの従兄のジロティはチャイコフスキーと親しくしていて、チャイコフスキーが『眠りの森の美女』をピアノ版に編曲しなければならなかったときに、ラフマニノフにやってもらおうと言って紹介したそうです。まだ若かったラフマニノフがその仕事を引き受けて編曲をしました。ジロティは人間としても、音楽家としても非常に才能のある方で、ニコライ・ルビンシテイン、アントン・ルビンシテインに音楽を学び、チャイコフスキーに音楽理論を学



自身もピアニスト・作曲家・指揮者の顔をもつ  
マエストロ ©Rainer Maillard DG

んだ。そのうちに、親戚筋の誰かが結婚したことによって、もともと友人だったジロティとチャイコフスキーは親戚にもなりました」。

——ラフマニノフは非常に高く評価されて交響曲第1番を書いたけれど大失敗し、ピアノ協奏曲第2番で復活した。その二つの作品は作風が大きく変化しているように思えます。

「交響曲第1番の初演はグラズノフが指揮しました。うまくいかなかったので、作曲家としてもあまりよくできていないということで落ち込んだ。すごく沈鬱な時期があり、その後にピアノ協奏曲第2番を書きました。ラフマニノフは、交響曲第1番が自分でもうまくいっていないことをわかっているから、演奏することを生前誰にも許しませんでした。今はそんなことは関係なく取り上げられています。

ラフマニノフは最初のオペラ『アレコ』が成功し、チャイコフスキーに高く評価された。当時の音楽界はこぞってラフマニノフを称賛しました。ですので、次の作品に期待が高まっていて、音楽界のしきたりなどもよく理解していたラフマニノフは、次もちゃんとした曲を書かなければならない、チャイコフスキーが評価してくれた音楽家としての立場をきちんと証明しなければならぬと気負いがあったのだと思います。でも、ラフマニノフにはその頃はまだ大曲を書くような知識や能力が欠けていたのでしょう。まだ知識も経験も全く不足している中で、期待と気負いも非常に大きかった。ラフマニノフは短い期間に書かなければと焦って書いて、自分の思いはこめたのだけれど曲として人を納得させるようなものではなかった。ですので、批評も非常に厳しいものがあって、ラフマニノフにとってはショックだった。彼は気負ってしまったのだらうと思います。周りが期待したりしなければよかったんです」。



2月定期演奏会で聴かせたチャイコフスキーに続き、6月はラフマニノフの生涯をたどります ©上野隆文

### ——ピアノ協奏曲第2番と『死の島』

「『死の島』は、精神状態も落ち着いて、大人として成熟し、交響曲第2番を書いた後にドレスデンで書いた作品です。若い時の期待感や世間の評価に応えようという

思い込みがなくなってきた、自分のうちと外が一致してきた頃の作品です。アルノルト・ベックリンの作品をもとに書きましたが、原画ではなくモノクロのリプロダクションを雑誌で見たのだそうです。そこからインスピレーションを受けた。数年してスイスのバーゼルでオリジナルの絵をわざわざ見に行ったそうですが、ラフマニノフはそれを見て全然気に入らず、オリジナルのカラーの絵を見ていたらあの曲は書かなかったと言ったそうです。私自身は良い絵だとは思いますが。当時の雑誌はモノクロの印刷しかできなかったのがそうなのだと思いますが、タイトルそのものが死の島というくらいなので、いずれにせよ、そう明るい作品にはならないでしょうね。ラフマニノフは作品の中で“死のテーマ”を使っていて、グレゴリオ聖歌のディエス・イレ（怒りの日）のメロディがたびたび出てきます。死のテーマ、怒りの日。逆に交響曲第2番は明るい気持ちになる作品で、まったく違ったイメージの作品です」

#### ——ラフマニノフと批評について。

「ラフマニノフがアメリカに行ってから、当時はあまり音楽評論が確立されていなくて、良い音楽評論家もいなかったのが、ラフマニノフの書くものを2流3流の作曲家の作品だという人もいたようです。ピアノ協奏曲第4番も駄作だと。それでラフマニノフは書き直しましたが、それでも駄作だと言う人がいた。3回目の書き直しをして、それ以降は書き直しをしていません。

交響曲第1番の失敗は彼にとって深い傷になり、生前は他人に演奏させませんでしたし、他人がこの曲の話題を出すのも嫌がりました。それでも、最後の作品『交響的舞曲』に彼は交響曲第1番のモチーフを忍ばせた。彼は『交響的舞曲』を書いているときにはもう、これが自分にとって最後の作品だとわかっていたのでしょね」  
(2023年2月・談)



[特別記事] ラフマニノフ生誕150年によせて

## セルゲイ・ラフマニノフの遠い旅路

文＝マリーナ・チュルチェワ(チャイコフスキー博物館・元学芸員)



2023年に生誕150年・没後80年のアニヴァーサリーを迎えた音楽家セルゲイ・ラフマニノフ。チャイコフスキーを敬慕し、作曲家として、ピアニストとして、また指揮者としても活躍しました。郷愁を誘うメロディーや華やかなオーケストレーションのいっぽうで「怒りの日」など不吉なモチーフを多用する驕りとのコントラストもまた愛される理由の一つかもしれません。本記事ではアニヴァーサリーを迎えたこの稀代の音楽家の生涯をご紹介します。

ラフマニノフはあらゆるジャンルに作品を残したが、何よりもまず大ピアニストだった。彼のオーケストラ技法は凝っているが、メロディーやパッセージなど指揮者が技巧派ピアニストなら意図を理解できる所が多い。その点でもプレトニョフほどの適任者はいないだろう。

セルゲイ・ラフマニノフは1873年4月1日(新暦)にノヴゴロド州セミョーノヴォに生まれた。父はステファン大帝の孫ラフマニンの末裔で陽気な甲斐性なし。母は士官学校長の娘で極度に内向的。いわばロシア人の両極の典型を受継いだ。本人は母の気質が濃いと自認しており、容易に心を開かず、近衛秀麿はフィラデルフィアで終始無視されたという。



少年時代のラフマニノフ

母がピアノを教えてみると天分を示したので若いピアニストが基礎を仕込んだ。一方両親は喧嘩が絶えず、彼が9歳の時に別居となりペテルブルクへ引越した。家族の団欒を知らぬ幼少期は人格形成に少なからず影響した。祖母と通う教会で聴く聖歌が楽しみで、これと街に響く鐘の音が音楽の原体験となり、作品のあちこちに印を残している。

少年ラフマニノフは後年から想像できないほど腕白な怠け者で、ペテルブルク音楽院幼年部も落第、退学処分となった。困った母は甥のピアニスト、アレクサンドル・ジロティに相談した。彼のピアノ演奏を聴き驚いたジロティはモスクワへ連れて行き、名伯楽ニコライ・ズヴェーレフに弟子入りさせた。そこでピアノから一般教養、礼儀作法まで厳しく躰けられ、来客のアントン・ルビンシテインやチャイコフスキーに会うこともできた。



ズヴェーレフのもとにいた頃のラフマニノフ(左から2番目)



アレクサンドル・ジロティ(左)とラフマニノフ

ピアノの腕を磨く一方作曲に関心を覚え、モスクワ音楽院でセルゲイ・タネーエフに対位法、アントン・アレンスキーに作曲を学び始めた。しかしピアノに専念させたいズヴェーレフと対立し、16歳の1888年に邸を飛び出して叔母のもとへ身を寄せ、初めて家族の味というものを知った。

1891年にピアノ科を卒業、作曲科には引き続き在籍して作品1の**ピアノ協奏曲第1番**や卒業制作のオペラ『アレコ』を作曲。後者はチャイコフスキーに激賞された。

チャイコフスキーの交響曲第6番『悲愴』と同じ1893年の**初の本格的オーケストラ曲『岩』**は、幻想性と異常な盛り上がりなど共通性がある。師タネーエフの邸にてピアノで披露した際、居合せたチャイコフスキーの気に入りに、ヨーロッパツアーで指揮すると約束されるも急逝により実現できなかった。世界初演はモスクワだったが、1896年にグラズノフ指揮によるペテルブルク初演を聴き、その演奏に感心した。

ところが翌年3月の同じグラズノフ指揮による**交響曲第1番**の初演はひどい演奏で大失敗に終り、キュイの酷評も追討ちをかけ作曲が出来なくなった。気負いの大きさに加え主題も民謡調ではなく「怒りの日」やロシア聖歌に由来するなど高尚すぎたこともあった。

失意の中、実業家マーモントフの私設オペラ劇場副指揮者となる。ピアノ中心の彼がオペラを実践的に知った収穫は大きく、終生の親友歌手シャリヤーピンと知合うこともできた。

周囲は文豪トルストイに彼を励ますよう頼むが、逆に説教となり病状を悪化さ



1900年頃のラフマニノフ

せた。マーモントフとのクリミア旅行では、『岩』のインスピレーションとなった小説の作者**チェーホフ**と知合った。チェーホフはラフマニノフがひとかどの芸術家になると予言した。そして病と闘う**カリニコフ**に引き合わせることで、彼がどれほど恵まれているかを悟らせた。

1900年1月から当時評判の精神科医ダリー博士の治療を受け、3年ぶりに創作欲が蘇り**ピアノ協奏曲第2番**へ結実した。第2、第3楽章をまず完成させ12月にモスクワで披露し、翌年10月の全曲初演は大成功を収め、20世紀ロシア音楽の記念すべき幕開けとなった。曲はダリー博士に捧げられた。翌年4月には従妹のナターリヤと結婚した。

1907年春、**ディアギレフ**に招かれパリでピアノ協奏曲第2番を演奏した。その際スイスの象徴主義画家ベックリンの「**死の島**」に感銘を受け交響詩にした。ラフマニノフが見たのはモノクロの複製で、かえってイマジネーションが広がった

ようだ。この曲にも「怒りの日」が現れる。

1909年秋は初のアメリカ公演を行った。ツアー用にピアノ協奏曲第3番を作曲、1910年1月に最晩年のマーラー指揮によるニューヨーク・フィルと演奏し、巨匠の完璧な共演ぶりと音楽性は忘れ難い印象を残した。マーラーは楽員に作品の素晴らしさを説いたという。

1917年にロシア革命が起きた。ラフマニノフは政治的でなかったが、帝政崩壊を歓迎するも、す

#### ラフマニノフの生涯

1873年	4月1日(新暦)ノヴゴロド州セミョーノヴォに誕生
1882年	両親が別居し、母とともにペテルブルクへ
1885年	ズヴェーレフに弟子入りし、翌年モスクワ音楽院に入学
1891年	モスクワ音楽院ピアノ科を卒業。作品1「ピアノ協奏曲第1番」を作曲
1893年	初の本格的オーケストラ曲、 <b>幻想曲「岩」</b> を作曲。チャイコフスキーに激賞される。歌劇『アレコ』初演
1897年	<b>交響曲第1番</b> がグラスノフの指揮により初演。不評に終わりスランプにおちいる
1900年	精神科医ダリー博士の治療により復調。ピアノ協奏曲第2番の作曲に着手
1901年	<b>ピアノ協奏曲第2番</b> 初演。自身のピアノと従兄であるジロティの指揮による
1907年	ディアギレフの招きでパリを訪問。ベックリンの絵画「死の島」(モノクロの複製)にインスピレーションを受ける
1909年	<b>交響詩「死の島」</b> を作曲。初のアメリカ公演。翌年マーラー指揮ニューヨーク・フィルとピアノ協奏曲第3番を演奏
1917年	ロシア2月革命、10月革命。ラフマニノフは12月にロシアを出国
1918年	ストックホルムなどを経て米国ニューヨークに移住
1940年	<b>交響的舞曲</b> を作曲。42年ビバリーヒルズに移住
1943年	3月28日、米国カリフォルニア州ビバリーヒルズの自宅で死去

ぐに不安と絶望に陥った。共産主義下での貴族の出自や家族の将来にも不安を覚えた。そこでスウェーデンでのコンサートに乗じて国を離れる決意をした。シャリヤーピンからの差し入れのキャビアとパンだけの、二度と戻ることのない寂しい旅立ちだった。

一年後ニューヨークへ移り、ピアニストとしての終わりなき生活が始まった。その結果安全で自由な生活はもとより、名声と莫大な収入を得たが創作は激減した。「ロシアを離れ作曲の意欲を失った。アメリカではメロディーが出てこない」と吐露している。

アメリカでもロシアの習慣に固執し、使用人や運転手、医師もロシア人だった。ジャズに魅かれガーシュウインの「ラプソディ・イン・ブルー」の初演を聴きに行ったが、彼とてロシア移民の子だったことが無縁でない。いつも仏頂面ながらジロティ、クーセヴィツキー、ホロヴィッツ、ストラヴィンスキーらロシア人には笑顔と温かい心遣いを見せたという。

1940年に集大成というべき「交響的舞曲」に取組んだ。ヨーロッパでは第2次世界大戦が始まっており、故郷と世界の運命への思いを、作曲ができないはずのアメリカから発した。この曲も「怒りの日」が象徴となっている。第1楽章は中間部に望郷の念にあふれる「白鳥の歌」と、コーダに因縁の交響曲第1番の主題を忍ばせ、終楽章のクライマックスに1915年の宗教曲「晩禱」から「主よ、汝は崇めらるる」を心の叫びのように引用している。

ラフマニノフは第2次世界大戦中の1943年3月28日に、ロシアへ帰ることなくビバリーヒルズの邸宅で亡くなった。あと4日で70歳の誕生日だった。



1910年代のラフマニノフ



ニューヨーク州ケンシコ墓地にあるラフマニノフの墓。多くの著名人が眠る(Grave of Sergei Rachmaninov (1873–1943), the Russian composer, in Kensico Cemetery in Westchester County, New York, USA, on May 3, 2006.)

マリナ・チュルチェワ／ロシアのクリン市生まれ。モスクワ大学歴史学部美術史学科卒業。1996年までチャイコフスキー博物館学芸員を務め、調度品の管理のほか、モスクワの各劇場と協力してチャイコフスキーのオペラとバレエの新舞台美術制作を担った。1996年以降は日本に住み、執筆と映像商品の日本語字幕訳などを行う。

The 984th Suntory Subscription Concert  
**Wed. May 10, 2023, 19:00 at Suntory Hall**

The 154th Tokyo Opera City Subscription Concert  
**Fri. May 12, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall**

The 985th Orchard Hall Subscription Concert  
**Sun. May 14, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall**

Mikhail Pletnev, conductor  
 Masanobu Yoda, concertmaster

Rachmaninov:  
*The Rock*, Op. 7 (ca. 12 min)

Rachmaninov:  
*Isle of the Dead*, Op. 29 (ca. 20 min)

— intermission (ca. 15 min) —

Rachmaninov:  
*Symphonic Dances*, Op. 45 (ca. 38 min)

- I. Non allegro
- II. Andante con moto. Tempo di valse
- III. Lento assai - Allegro vivace

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra  
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |  
 Japan Arts Council (May 10)  
 In Association with **Bunkamura** (May 14)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

# Artist Profile



©Takafumi Ueno

## Mikhail Pletnev, conductor

Special Guest Conductor of  
the Tokyo Philharmonic Orchestra

10  
May

12  
May

14  
May

Mikhail Pletnev is an artist who cannot be classified in one word. Known as a genius and one of the greatest pianists of our time and also as conductor and composer. Born in Archangel, Russia in 1957. Awarded the 1st prize and Gold Medal at renowned Tchaikovsky Competition in 1978 when he was 21 years old.

The resulting friendship with Mikhail Gorbachev in time gave Pletnev the opportunity to found Russian National Orchestra (RNO) in 1990.

Pletnev is also often invited to conduct noted orchestras such as Staatskapelle Dresden, Royal Concertgebouw Orchestra, and others. Starting from July 2003, he has been invited to conduct the Tokyo Philharmonic Orchestra and was appointed as Special Guest Conductor from 2015. As a composer, he has been composing numerous works among which there is a cello sonata written for Steven Issarlis. His CDs have been released from Deutsche Grammophon and Pentatone Classics.

In 2022, he founded the Rachmaninov International Orchestra (RIO).

# Program Notes

Text by Robert Markow

## Rachmaninov: *The Rock*, Op. 7

*The Rock* was one of Rachmaninov's earliest orchestral works, preceding all the symphonies and concertos except the First Symphony. Nevertheless, by the time he wrote this short mood piece in his twentieth year he had already gained considerable experience in the orchestral medium, including a Scherzo written at age fourteen, the symphonic poem *Prince Rostislav*, attempts at a piano concerto and a symphony, and the opera *Aleko*. The orchestration of *The Rock* is assured and well crafted, even if the thematic material is tenuous and the development of ideas falls short of a true master.

The highly atmospheric work, also known in English as *The Crag*, takes its title from Mikhail Lermontov's poem of the same name. The poem's first two lines appear at the top of Rachmaninov's score as follows: "The little golden cloud spent the night/On the breast of the giant crag." But the perceptive listener will sense that there is more to Rachmaninov's thirteen-minute piece than clouds and crags. Indeed, the true inspiration comes from another literary source, Anton Chekhov's story "On the Road," in which crags and clouds are allegorical symbols for an older man and a younger woman who meet briefly at a roadside inn.

The music follows the narrative of Chekhov's story in a series of moods ranging from loneliness and despair to hope to joy to passion and back to loneliness and despair at the end. The main musical building blocks are the man's motif (opening bars in the lower strings) and the woman's motif (solo flute). Listeners familiar with Tchaikovsky's music will hear numerous touches of orchestration reminiscent of the older composer, whom Rachmaninov met shortly after completing *The Rock*. Rachmaninov played Tchaikovsky a piano reduction of the score, which earned Tchaikovsky's strong approval.

10  
May

12  
May

14  
May

The first performance took place at a Russian Music Society Concert conducted by Vasily Ilyich Safonoff in Moscow on the composer's 21st birthday, April 1, 1894.

**SERGEI RACHMANINOV:** Born at Oneg, an estate near Novgorod, April 1, 1873; died in Beverly Hills, California, March 28, 1943

**Work composed:** 1893 World premiere: April 1, 1894 in Moscow, conducted by Vasily Ilyich Safonoff

**Instrumentation:** piccolo, 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, bass drum, triangle, cymbals, tam-tam), harp, strings

## Rachmaninov: *Isle of the Dead*, Op. 29

10  
May12  
May14  
May

Rachmaninov's predilection for dark colors, somber moods, and pathos found no greater manifestation than in his symphonic poem *The Isle of the Dead*. Inspiration for this remarkable score came from a painting of the same title by the Swiss artist Arnold Böcklin (1827-1901). Böcklin's painting exists in five versions (1880-1886; a sixth was done in 1901 with his son Carlo). But Rachmaninov's direct source was a black and white reproduction he saw in Paris in 1907. His imagination was seized by this grim, gloomy picture with its stark, brooding cliffs, ghostly cypress trees and the image of a black-draped rower steering a small boat across the water with a casket and a single mourner.

The association with Greek mythology – Charon gliding across the black water of the Styx – is too close to be ignored. Böcklin, who spent much of his life in Italy, presumably had a specific Mediterranean island in mind for his painting (perhaps Pondikonisi, which lies off the shores of Corfu; some authorities maintain it was Ponza, largest of the Pontine Islands in the Tyrrhenian Sea), but, as biographer Patrick Piggott observes, “the suggestive power of Rachmaninov's music carries the listener into regions of the imagination far beyond the range of the Swiss painter's art, and it must be emphasized that it was not so much the quality of Böcklin's painting that stimulated Rachmaninov as its subject.” The score was

composed in 1909 and first performed on May 1 of that year in Moscow with the composer conducting.

The baleful mood is established in the opening bars. A mantle of oppressive gloom hangs over the music. A restless, undulating motif with five beats to the bar (usually 2 + 3; sometimes 3 + 2) suggests the slow dip and pull of Charon's oars, or perhaps the gentle lapping of the waves. The pervasive motif slowly builds to a powerful climax. Solemn brass pronouncements punctuate the way. Despite the muted colors and grave mood, there is an awesome sense of impending doom. Suddenly the spirit takes flight: the lopsided 5/8 rhythm changes to a regular 3/4, the minor tonality yields to major, the mood becomes urgent and even passionate. Rachmaninov referred to the long-breathed melody in E-flat major as the "life" theme, to which the dead soul recalls the pleasures of life on earth. Intimations of the "Dies irae" motif (the Latin chant for the dead in the Catholic liturgy) mingle with the "life" theme. The latter is finally stamped out; dark mutterings of the "Dies irae" float about; the unnerving, rocking motif in 5/8 rhythm returns; the colors darken; Charon continues on his way in Stygian gloom as the music dies away into inaudibility.

Work composed: 1909 World premiere: May 1, 1909 in Moscow, conducted by the composer

Instrumentation: 3 flutes (1st doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, 6 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (bass drum, cymbals), harp, strings

## Rachmaninov: *Symphonic Dances*, Op. 45

Rachmaninov wrote his last composition in a surge of creative inspiration while recuperating from an illness at his summer home near Huntington, Long Island. On August 21, 1940, he wrote to Eugene Ormandy, conductor of the Philadelphia Orchestra: "Last week I finished a new symphonic piece, which I naturally want to give first to you and your orchestra. It is called *Fantastic Dances*. I shall now begin the

orchestration.” Rachmaninov had enjoyed a long and fruitful relationship with the Philadelphia Orchestra, so it was only natural that he offer this superb ensemble the honor of the world premiere, which took place on January 3, 1941. The original title, later changed, was probably given in memory of Shostakovich’s work of the same title for solo piano.

Exceptionally brilliant orchestration contributes significantly to making the *Symphonic Dances* one of the finest scores in Rachmaninov’s catalogue. Nevertheless, it should be noted that he also prepared a two-piano version of the score that, in its own medium, is as masterly as the full orchestral work. The composer enjoyed playing this privately with his friend and neighbor in New York, Vladimir Horowitz. The care Rachmaninov lavished on the orchestration can be seen in his taking the trouble to consult Robert Russell Bennett about the use of the saxophone, which Rachmaninov used for the first and only time in this work. To an otherwise normal-sized orchestra, the composer also added a large number of percussion instruments that shine, glisten and tinkle: glockenspiel, xylophone, piano, harp, chimes, triangle, tambourine, and cymbals.

The first movement is characterized by vigorous rhythmic drive and a theme built from a tiny, three-note motif announced first by the English horn and followed immediately by clarinet, then bassoon. The pervasive use of this three-note motif, which is found in nearly every measure of the opening and closing sections of the movement, calls to mind Beethoven’s use of a four-note motif in the first movement of his Fifth Symphony. The central lyrical section features the solo saxophone in an expressive melody reminiscent of a Russian folk song. Near the end of the movement we hear another new theme, this one warmly consoling and played by violins and cellos. The theme actually evokes a poignant autobiographical memory, as it is derived from a theme in the composer’s First Symphony, written nearly half a century earlier.

Sinister harmonies from the brass introduce the second movement, an uneasy, mysterious waltz tinged with nostalgia and melancholy. On and on the music swirls, becoming increasingly energetic, gyrating passionately.

The final movement too opens with mysterious, ominous mutterings and rumblings, but soon launches into a rousing, brilliantly scored movement full of fantastic images, rhythmic excitement, and tintinnabulation from

10  
May12  
May14  
May

the percussion department. The music winds down for a somber central section full of haunting, spectral sounds and evocations of lost worlds. Here Rachmaninov introduces the “Dies irae” motif of which he was so fond. But shortly before the end of the movement, the word “Alliluya” appears in the score. This provided a clue that led to Geoffrey Norris’ discovery that the coda is derived from the Russian chant *Blagosloven esi Gospedi*, which Rachmaninov had used in his *All-Night Vigil*, op. 37. Musicologist Michael Steinberg sums up the importance of this fact by stating: “Given what we know of Rachmaninov’s state of mind in 1940, it is likely that he thought of this as his last composition even as he was getting it onto paper with such intensity and speed. We see him then taking leave of his craft with a hymn of thanks and praise. Perhaps it is not too much to imagine that the symbolic victory of the *Blagosloven* theme over the “Dies irae” is Rachmaninov’s own affirmation of the faith that ‘Death shall be swallowed up in Victory.’” The *Symphonic Dances* end in a blaze of colors that bring to mind some of the most memorable pages of Ravel and Rimsky-Korsakov.

**Work composed:** 1940    **World premiere:** January 3, 1941 in Philadelphia, by the Philadelphia Orchestra conducted by Eugene Ormandy

**Instrumentation:** piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, alto saxophone, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, side drum, bass drum, triangle, cymbals, tam-tam, 3 bells, glockenspiel, xylophone), harp, piano, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

## 2023 season Subscription Concerts Lineup

*"Alongside its overwhelming plethora of culturing offerings, the Japanese capital is host to several orchestras, the most prestigious among them being the Tokyo Philharmonic. This season combines venerable elder musicians with fiery young soloists and conductors"* -- Bachtrack

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience! Single tickets are now available.

### June

**conductor: Tadaaki Otaka**, conductor laureate    **piano: Masaya Kamei**

Fri, Jun 23, 19:00  
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jun 25, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Jun 27, 19:00  
at Suntory Hall

Atsutada Otaka:  
IMAGE for orchestra  
Rachmaninov:  
Piano Concerto No. 2  
Rachmaninov:  
Symphony No. 1  
<The 150th anniversary of Rachmaninov's birth>

Single tickets available

### July

**conductor: Myung-Whun Chung**, honorary music director

Sun, July 23, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, July 27, 19:00  
at Tokyo Opera City Concert Hall

Mon, July 31, 19:00  
at Suntory Hall

Verdi:  
opera *Otello* in concert style  
Libretto by Arrigo Boito (in Italian),  
after Shakespeare.

**Gregory Kunde, Otello**  
**Atsuko Kobayashi, Desdemona**  
**Dalibor Jenis, Iago**  
**Hajime Aizawa, Lodovico**  
**Francesco Marsiglia, Cassio**  
**Ikuko Nakajima, Emilia**  
**Toshiaki Murakami, Roderigo**  
**Takashi Aoyama, Montano**  
**Jumbo Tang, A Herald**  
**New National Theatre Chorus**

Single tickets available

## October

conductor: **Chloé Dufresne** violin: **Lina Nakano**

Wed, Oct 18, 19:00  
at Tokyo Opera City Concert Hall

Thu, Oct 19, 19:00  
at Suntory Hall

Sun, Oct 22, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall

Lili Boulanger:  
Of a Spring Morning <The 130th anniversary  
of Lili Boulanger's birth>  
Saint-Saëns:  
Violin concerto No. 3  
Berlioz:  
Symphonie fantastique

Single tickets available

## November

conductor: **Andrea Battistoni**, chief conductor cello: **Haruma Sato**

Fri, Nov 10, 19:00  
at Suntory Hall

Sun, Nov 12, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, Nov 16, 19:00  
at Tokyo Opera City Concert Hall

Tchaikovsky:  
The Tempest  
Variations on a Rococo Theme  
Hamlet  
Romeo and Juliet Fantasy Overture  
<The 130th anniversary of Tchaikovsky's death>

Single tickets available

### Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522

(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



Please refrain from crowded chatting in the lobby and other areas.

Face masks are recommended in the venue.

Please take your temperature at the entrance of the venue.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Thank you for your cooperation!

## 東京フィルだより - 2023年シーズン今後の定期演奏会

### 6月の定期演奏会

第155回東京オペラシティ定期シリーズ

6月23日(金)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第986回オーチャード定期演奏会

6月25日(日)15:00 Bunkamura オーチャードホール

第987回サントリー定期シリーズ

6月27日(火)19:00 サントリーホール

指揮：尾高忠明(桂冠指揮者)

ピアノ：亀井聖矢\*

(2022年ロン=ティボー国際音楽コンクール優勝)

尾高惇忠／オーケストラのための『イマージュ』

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番\*

ラフマニノフ／交響曲第1番

(ラフマニノフ生誕150年)



尾高忠明

©上野隆文



亀井聖矢

©平舘平

### 7月の定期演奏会

第988回オーチャード定期演奏会

7月23日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第156回東京オペラシティ定期シリーズ

7月27日(木)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第989回サントリー定期シリーズ

7月31日(月)19:00 サントリーホール

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

オテロ(テノール)：グレゴリー・クンデ

デズデーモナ(ソプラノ)：小林厚子

イアーゴ(バリトン)：ダリボル・イエニス

ロドヴィーゴ(バス)：相沢 創

カッショ(テノール)：

フランチェスコ・マルシーリア

エミーリア(メゾ・ソプラノ)：中島郁子

ロデリーゴ(テノール)：村上敏明

モンターノ(バス)：青山 貴

伝令(バス)：タン・ジュンボ

合唱：新国立劇場合唱団

(合唱指揮：富平恭平)



チョン・ミョンフン

©上野隆文



グレゴリー・クンデ  
©Chris Cloag

小林厚子  
©Yoshinobu Fukaya



ダリボル・イエニス

ヴェルディ／歌劇『オテロ』(オペラ演奏会形式)

全4幕・日本語字幕付き原語(イタリア語)上演

原作：ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』／台本：アッリーゴ・ボーイト

公演時間：約2時間50分(休憩含む)

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

\*東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは  
東京フィルチケット  
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/発売日を除く土日祝休)  
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



桂冠指揮者  
**尾高忠明が語る**  
尾高惇忠「イマージュ」と  
ラフマニノフ

6月定期演奏会は桂冠指揮者尾高忠明が登場。2021年に急逝した兄で作曲家の尾高惇忠氏と、今年アニヴァーサリーを迎えたラフマニノフ、それぞれの若き日の作品を取り上げます。

マエストロに作品についての思いをたずねました。

### 兄・尾高惇忠と「イマージュ」の思い出

「兄（作曲家・尾高惇忠）はつい最近（2021年2月）亡くなりました。兄と僕は子供の頃から非常に仲も良かったし、喧嘩もよくしました（笑）。僕たち兄弟は母から『何の職業でも選びなさい。でも音楽家はだめ』って言われていたのだけれど、兄貴が作曲で僕は指揮者になった。すごい親不孝にも思えるけれど、でも、それしかできなかったのかなと思いますね。

兄は作曲で藝大に入り、フランスのパリに留学し、帰国して色々な曲を書き始めました。その頃、僕は民主音楽協会の現代音楽祭の選考委員をしていたのですが、僕以外の選考委員の方々が『お兄様に書いてもらいましょう』と言い出した。でも、当時、兄はオーケストラ



尾高惇忠（1944年3月10日  
-2021年2月16日）

の曲をまだ書いていなかったからちょっと怖いと僕は言ったんです。ところが他の人たちがみんな一致して『いや書いてもらいたい』とおっしゃった。ところが、なかなか筆が進まなくてすごい難産でした。それでも、どんどん日にちが迫ってきて一応完成した(初演は尾高忠明指揮東京フィル)。さあ、明日から練習だというときに、兄が指揮をする僕の家までやってきたんです。ところが心配で何も手につかない。僕が『みんな絶対絶対弾いてくれるから、弟を信用しなさい』と言うのだけれど、それでももうガクガク震えているような感じでした。その日の朝はもう目がうつろでした。でも、東京フィルがとても良い演奏をしてくれたので、やっとほっとした。かなり難しい曲なので苦労しましたが、本番はある程度うまくいって、《尾高賞》(1982年)をいただけることになりました。

オーケストラの作品の処女作というのはその本人が非常に出ます。それが、短い時間に凝縮されている。兄がものすごい苦労をして、でもすごいパワーを秘めて書いていた日々を思い出しました。今の東京フィルにはそのときの演奏者は誰もいないでしょうから、どんなふうになるでしょう、面白いなと思います」。

## ラフマニノフ『交響曲第1番』について

「ラフマニノフの『交響曲第1番』は、大変な名曲であるにもかかわらず、初演でひどいことを言われて落ち込んでしまって、演奏されなくなったという経緯がある。ラフマニノフのいわゆる若気の至りです。至るところに火花を飛ばしている。最初からすごく激しいところがあったり、おセンチなところがあったり、ラフマニノフを好きな人は絶対好きだという曲です。けれど、初演のときに批評でひどいことを言った人たちが、もしも、ある程度でもあの曲の価値を認めてあげていたら、もっとこの曲の生い立ちは変わってきていると思うんです。ぜひとも初演で評判が悪かった曲だと思って聴かないでほしい。こんな若気の至りで、いわゆる澁刺とした、ラフマニノフとしては「これも書きたい、あれも書きたい」という思いがてんこ盛りです。長い曲ですけど、多分聴いていてあっという間に進んでしまうと思います。すごく情緒が必要な曲ですから、それを東京フィルがどんなふうにやってくれるか。数年前に『第2番』と一緒にやりましたが、あのときもみんな素晴らしかったし、良い『第1番』になるのではないかと思います」。



1900年頃のラフマニノフ

## ラフマニノフ『ピアノ協奏曲第2番』について

「ピアノ協奏曲はもちろん『第2番』が一番有名だけれど、ラフマニノフは4つ書いてそれ以外に、『バガニーニ・バリエーション(バガニーニの主題による狂詩曲)』を加えると5つ。それぞれ全部違います。このラフマニノフの第2番の協奏曲は、ある意味で『交響曲第2番』のように、欠点なしというか非の打ち所ないというか、非常にバランスのとれた素晴らしい曲。皆さんが好きなメロディも、ピアノスティックな良さもたくさんあるし、オーケストラのいわゆる独特のうねりというものがある。他の作曲家にはないものが、至るところにある。日本のオーケストラはラフマニノフの『第2番』の協奏曲を数多く演奏していますし、そして東京フィルとも一緒にやったことはありますから、絶対にいい演奏になるでしょう。

ソリストの亀井聖矢さんとは初めてご一緒します。ロン＝ティボー国際音楽コンクールで聴衆賞も評論家賞も1位も全部取ったということで、本当に正真正銘素晴らしいんだらうなと、すごく楽しみです。ラフマニノフの『ピアノ協奏曲第2番』も徹底し



ピアノ：亀井聖矢  
©平沼平

た定番ですから、これは亀井聖矢くんという若い人を聞いてみましょう、僕を含めて一緒に聞きましょう、と申し上げたいです。

亀井さんはまだ21歳でしょう。僕と半世紀以上という歳の差で、どんな共演になるのか楽しみです。それと、ラフマニノフと兄貴(尾高惇忠)がいかにか苦労して最初の曲／最初の交響曲を書いたか。ここで改めて一緒に演奏することによって、その2曲の新しさ、いわゆるニューウェーブを感じていただきたいと思います」。



2021年6月定期演奏会 ©中崎武志



◀全文はこちらからご覧いただけます

<https://www.tpo.or.jp/information/detail-20230313-01.php>

## 6月定期演奏会聴きどころ



「このたび、2023年6月23日、25日、27日の3公演、東京フィルハーモニー交響楽団の皆様、そして尾高忠明マエストロとラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を演奏させていただきます。

2023年はラフマニノフの生誕150年のアニヴァーサリーイヤーということで、このような記念すべき年に、僕の最も大好きな作曲家の一人であるラフマニノフの傑作を素晴らしいホールで演奏できるということで、私のラフマニノフ愛をすべてここにぶつけて演奏したいと思っております。

ラフマニノフの持つエモーショナルなメロディや重厚なハーモニーをぜひ会場で、生で、一緒にお楽しみいただけたら嬉しいです。ぜひお越しく下さい」

(2022年12月・談)

亀井聖矢(かめい・まさや) / 2001年生まれ。2022年、ロン=ティボー国際音楽コンクールにて第1位を受賞。併せて「聴衆賞」「評論家賞」の特別賞を受賞。日本音楽コンクール第1位、ピティナ特級グランプリ、マリア・カナルス国際ピアノコンクール第3位その他、2023年は文化庁長官表彰(国際芸術部門)、第32回出光音楽賞など国内外で受賞を重ねている。国内主要オーケストラとの共演多数。2022年12月のサントリーホールデビューリサイタルは2000席が完売、角野準斗との2台ピアノでのコンサートツアーも全公演完売。2022年12月、1stフルアルバム「VIRTUOZO」をリリース(「レコード芸術」誌・特選盤)。メディアでも多数取り上げられるなど、今最も勢いのあるピアニストとして注目されている。

オーケストラ・キャラバン〜オーケストラと心に響くひとときを〜  
東京フィルハーモニー交響楽団 福山特別公演

日時 2023年6月22日(木) 19:00開演(18:15開場)  
会場 ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ 大ホール  
出演 指揮:尾高忠明(東京フィル桂冠指揮者) / ピアノ:亀井聖矢  
(2022年ロン=ティボー国際音楽コンクール優勝) / 管弦楽:東京  
フィルハーモニー交響楽団  
曲目 <ラフマニノフ 生誕150年記念>  
ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18  
交響曲第1番 ニ短調 Op.13



©Martin Richardson



©T. Tairadate

チケット料金(全席指定・税込) S席4,000円 A席2,500円 22歳以下1,000円(座席不問)  
問合せ リーデンローズ TEL 084-928-1810(9:00~17:00 / 月曜休館・祝休日の場合翌日)

軽井沢大賀ホールクラシックス2023 開催決定!

◆阪田知樹ピアノ・リサイタル

日時・会場 8月12日(土) 15:00開演(14:15開場) 軽井沢大賀ホール  
出演 阪田知樹(ピアノ) ※東京フィルハーモニー交響楽団の出演はありません。  
曲目 ショパン / 24の前奏曲 Op.28  
リスト / 巡礼の年 第2年「イタリア」S.161/R.10 より 他



©HIDEKI NAMAI

◆奇跡のチェロ・アンサンブル2023

日時・会場 8月13日(日) 15:00開演(14:15開場)  
軽井沢大賀ホール

出演 辻本玲、横坂源、伊藤悠貴、小林幸太郎、  
岡本侑也、上野通明(チェロ)  
※東京フィルハーモニー交響楽団の出演はありません。

曲目 クレンゲル / 讃歌  
グリーク / 組曲『ホルベアの時代から』  
サン=サーンス / 序奏とロンド・カプリチオーズ  
ピアソラ / ブエノスアイレスの四季 ~『夏』『秋』『冬』『春』 他



©Takashi Okamoto

©Charlo tteFielding



©Yuji Hori

©Shigeto Imura

料金(各公演共通・全席指定・税込)

SS席¥8,000 S席(1階・2階)¥7,000 A席¥6,000 B席¥4,500  
W席(2階合唱席)¥3,000 C席(2階立見席)¥2,500

チケット問合せ 軽井沢大賀ホールチケットサービス 0267-31-5555  
(10:00~18:00 / 休館日を除く)

## メンバー出演情報『J.S.バッハと共に』渡邊辰紀チェロ独奏

東京フィルハーモニー交響楽団首席チェロ奏者の渡邊辰紀が、すべてのチェロ愛好者、すべてのバッハファンに向けて送る、東京で初の完全ソロコンサート。

日時 2023年5月27日(土)19:00開演(18:30開場)

会場 かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホール  
(JR日暮里から京成本線快速で2駅『青砥』徒歩5分)

出演 渡邊辰紀(チェロ)

曲目 J.S.バッハ／無伴奏チェロ組曲第1番(BWV1007)、無伴奏チェロ組曲第2番(BWV1008)、無伴奏チェロ組曲第3番(BWV1009)、シャコンヌ～無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番(BWV1004)より

チケット料金 5,000円(全席指定)

問合せ 陽向企画コンサート企画部 Webサイト

<https://youkouconcert.studio.site/> (youkouconcert で検索)

※ SNSアカウント(Twitter／Instagram／Facebook)からもお問合せ頂けます。



©平部平

## 4月より打楽器に秋田孝訓(あきた たかのり)が入団いたしました。

「みなさま、はじめまして、打楽器の秋田孝訓です。

伝統あるオーケストラの一員となれる事を大変誇りに思います。クラシカルなものはもちろん、JAZZなども大好きなので、バレエ、オペラからポップスまで幅広いジャンルの音楽をこのオーケストラの中で演奏出来る事がとても楽しみです。みなさまに感動していただけるような音楽の一部になれるよう日々精進していきたいと思ひます。お客様、オーケストラの皆様、これからどうぞ宜しくお願い致します」。



## 2023シーズン 今後の定期演奏会

112年目を迎えた東京フィルの2023シーズン定期演奏会、当楽団が誇るマエストロたちと次代を担う音楽家たちとともに大好評開催中です。

“オペラの東京フィル”が誇る《オペラ演奏会形式》上演は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンによるヴェルディの傑作『オテロ』（7月定期演奏会）。7月定期を含む下半期の1回券も発売開始いたしました。要注目の演目が盛りだくさんです。お聴き逃しなく！

### 6月 指揮: 尾高忠明 (桂冠指揮者) ピアノ: 亀井聖矢\*

(2022年ロン＝ティボー国際音楽コンクールピアノ部門優勝)

第155回 6月23日(金) 19:00  
東京オペラシティ コンサートホール

第986回 6月25日(日) 15:00  
Bunkamuraオーチャードホール

第987回 6月27日(火) 19:00  
サントリーホール

尾高惇忠／オーケストラのための『イマージュ』  
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番\*  
ラフマニノフ／交響曲第1番  
(ラフマニノフ生誕150年)



聴きどころは  
こちらから

1回券発売中

### 7月 指揮: チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)

第988回 7月23日(日) 15:00  
Bunkamuraオーチャードホール

第156回 7月27日(木) 19:00  
東京オペラシティ コンサートホール

第989回 7月31日(月) 19:00  
サントリーホール

ヴェルディ／歌劇『オテロ』



オテロ: グレゴリー・クンデ  
デズデーモナ: 小林厚子  
イアーゴ: ダリボール・イエニス  
ロドヴィーコ: 相沢 創  
カッシオ: フランチェスコ・マルシーリア  
エミーリア: 中島郁子  
ロデリーゴ: 村上敏明  
モンターノ: 青山 貴  
伝令: タン・ジュンボ  
合唱: 新国立劇場合唱団 (合唱指揮: 富平恭平)



聴きどころは  
こちらから

1回券発売中

10  
月**指揮: クロエ・デュフレヌ**

(2021年ブザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞)

**ヴァイオリン: 中野りな\***

(2022年仙台国際音楽コンクール優勝)

第157回 10月18日(水)19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第990回 10月19日(木)19:00

サントリーホール

第991回 10月22日(日)15:00

Bunkamuraオーチャードホール

リリ・ブーランジェ／春の朝に

(リリ・ブーランジェ生誕130年)

サン＝サーンス／ヴァイオリン協奏曲第3番\*

ベルリオーズ／幻想交響曲

聴きどころは  
こちらから

1回券発売中

11  
月**指揮: アンドレア・バッティストーニ**

(首席指揮者)

**チェロ: 佐藤晴真\***

(2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝)

第992回 11月10日(金)19:00

サントリーホール

第993回 11月12日(日)15:00

Bunkamuraオーチャードホール

第158回 11月16日(木)19:00

東京オペラシティ コンサートホール

チャイコフスキー／幻想曲『テンペスト』

チャイコフスキー／

ロココの主題による変奏曲\*

チャイコフスキー／幻想序曲『ハムレット』

チャイコフスキー／

幻想序曲『ロメオとジュリエット』

(チャイコフスキー没後130年)

聴きどころは  
こちらから

1回券発売中

| お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝日休/  
発売日の土日祝は10時～16時)URL [www.tpo.or.jp/](http://www.tpo.or.jp/)(24時間受付・座席選択可)

詳細は



## 午後のコンサート。2023シーズンのラインナップ

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2023シーズンが好評開催中。オーケストラの名曲と音楽家のお話をおきのお話で楽しむ午後のひととき。東京フィルの午後のコンサートをお楽しみください。ただ今、6月公演の1回券を販売中。まもなく7月・8月・9月公演の1回券も発売いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

**渋谷の午後のコンサート** 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

7月9日(日)

第18回

〈コパケン・クライマックス〉

指揮とお話:

小林研一郎

ヴァイオリン:  
服部百音

1回券  
5月発売

※7月6日「平日の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫子 ©Yuji Inagaki

9月18日(月・祝)

第19回

〈秋の大感謝祭〉

指揮とお話:

角田鋼亮

ゲスト(ピアノ):  
園田隆一郎、  
三ツ橋敬子

1回券  
5月発売



©Hikaru Hoshi ©Earl Ross

11月5日(日)

第20回

〈なんでもOKストラ!!〉

指揮とお話:

円光寺雅彦

ピアノ:

清塚信也

※11月6日「平日の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦興一 ©Yuji Takeuchi

※東急百貨店本店跡地の再開発に伴い、「渋谷の午後のコンサート」は当面の間、週末の開催になります。

**平日の午後のコンサート** 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

7月6日(木)

第30回

〈コパケン・クライマックス〉

指揮とお話:

小林研一郎

ピアノ:

小林亜矢乃

1回券  
5月発売

※7月9日「渋谷の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫子 ©Hiromi Uchida

8月7日(月)

第31回

〈真夏の午後の夢〉

指揮とお話:

出口大地

ピアノ:

清水和音

1回券  
5月発売



©hiro.pberg\_berlin ©Mana Miki

11月6日(月)

第32回

〈なんでもOKストラ!!〉

指揮とお話:

円光寺雅彦

ピアノ:

清塚信也

※11月5日「渋谷の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦興一 ©Yuji Takeuchi

**休日の午後のコンサート** 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

6月11日(日)

第97回

〈よくばりヴァイオリン〉

指揮とお話:

出口大地

ヴァイオリン:

松田理奈

1回券  
発売中



©hiro.pberg\_berlin

©Akira Muto

9月3日(日)

第98回

〈コバケンのベートーヴェン!〉

指揮とお話:

小林研一郎

ピアノ:

小林亜矢乃

1回券  
5月発売



©上野隆文

©Hiromi Uchida

12月3日(日)

第99回

〈クリスマス in ニューヨーク〉

指揮とお話:

円光寺雅彦

ヴァイオリン:

廣津留すみれ



©K.Miura ©Ryuto Kurokawa

曲目等詳細は東京フィルウェブサイトまたは別途配布するご案内をご覧ください。

## 午後のコンサート。2023シーズンの発売スケジュールについて

### ◆7月・8月・9月公演1回券の発売スケジュール

最優先※お電話のみ(賛助会員様、定期会員様)	5/16(火)10:00
優先※お電話のみ(東京フィルフレンズ会員様)	5/20(土)10:00
優先(WEB優先発売)	5/20(土)10:00~5/29(月)23:59
一般発売	5/30(火)10:00

チケット料金	S席	A席	B席	C席
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ会員)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※1回券は4回セット券の販売後、残席ある場合のみ販売いたします。

すでに残席が少ないシリーズやセット券で完売している席種もございます。詳しくはお問合せください。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522(平日10時~18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時~16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



## Photo Reports 2023年3月の演奏会より

3月の定期演奏会には首席指揮者アンドレア・バッティストーニが登場、マエストロの故郷イタリアとフランスを繋ぐ3曲の管弦楽作品をお届けしました。また新宿区、静岡県磐田市に登場。市民合唱団との共演で2つの合唱付き作品を奏でました。

写真=寺司正彦(3/9)/上野隆文(3/10, 12)

### 3月定期演奏会(3/9, 10, 12)

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

オルガン：石丸由佳\*

コンサートマスター：近藤 薫

ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』

カゼッラ／狂詩曲『イタリア』(カゼッラ生誕140年)

サン＝サーンス／交響曲第3番『オルガン付き』\*



今回も表情豊かに、かつ精緻にオーケストラを牽引したマエストロ(3/12)



初日は東京オペラシティコンサートホールにて。美しいオルガンの音が響きました(3/9)



カゼッラの狂詩曲「イタリア」では、シチリアやナポリの民謡から採られたメロディが組み込まれ、イタリアの歴史の光と影が鮮やかに描かれました(3/12)

## ご報告

3月12日オーチャード定期演奏会の開演前には、賛助会員様・定期会員様をお招きし公開リハーサルを開催しました。リハーサル後のマエストロのトークでは「会場によって響きが変わるので、それぞれのホールに最適な音をチェックする」など秘訣が語られ、来場者からは「マエストロのこだわりを知ることができた」「オーケストラの工場見学のように興味深かった」などご好評いただきました。



集中力の高いリハーサルを終え、賛助会員・定期会員の皆様にご挨拶するマエストロ

### 新宿文化センター× 東京フィルハーモニー交響楽団 ベルリオーズ「レクイエム」(3/18)

指揮：アンドレア・バッティストーニ  
テノール：宮里直樹  
合唱：新宿文化センター合唱団  
(合唱指導／山神健志)  
コンサートマスター：三浦章宏

ベルリオーズ／レクイエム



巨大な編成を要し、滅多に演奏されないベルリオーズの大曲を新宿文化センター合唱団の皆様と共演

©スタッフ・テス

東京  
フィル  
だより

### 東京フィルハーモニー交響楽団と市民合唱団が高らかに奏でる『第九』(3/21)

指揮：アンドレア・バッティストーニ  
ソプラノ：中井奈穂 メゾソプラノ：山下裕賀  
テノール：清水徹太郎 バス：上江隼人  
合唱：メモリアル「第九」合唱団  
コンサートマスター：三浦章宏

ブラームス／大学祝典序曲  
ベートーヴェン／交響曲第9番二短調『合唱付き』

静岡県磐田市民文化会館「かたりあ」開館を記念して結成されたメモリアル「第九」合唱団との共演で、新たな文化の拠点のオープンを祝いました

## 先端科学技術と「こころ」

東京大学先端科学技術研究センター 所長  
杉山 正和



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。今回は、2020年から東京フィルが連携協定を結んでいる、東京大学先端科学技術研究センター教授／所長で、再生可能エネルギーシステムをご専門とする工学博士の杉山正和先生に、オーケストラとの連携によせた考えを綴っていただきました。

宇宙に向かって語る。これは哲学ではなく、大学教員がコロナ禍で遭遇した困難の最たるもの——ネット講義でした。聴いている（はずの）学生は画面の中の黒い枠でしかなく、聴衆の反応をリアルタイムで感じられない中で講義を続けるのは、耐え難い試練でした。講義の途中で、聴いている学生ではなく、話している私が居眠りしそうになったくらいです。誰もいないホールから演奏をネット配信していたオーケストラの皆様はさぞかし辛かったことでしょう。でも、楽員同士のコミュニケーションは取れていましたよね。コンサート会場では、聴覚と視覚だけでなく、現在の科学では必ずしも明確には記述できない手段によるコミュニケーションが、指揮者と楽員の間だけでなく、聴衆も巻き込んでつねに展開されている。だから生のコンサートは、毎회가唯一無二の体験になるのだと思います。

私の所属する東京大学先端科学技術研究センター（先端研）は、特定の学問分野を極めるのではなく、異分野の学知を融合させて、時代が求める「先端」を創り出すことを使命としています。科学技術という言葉から想像される、いわゆる理系の研究者だけでなく、政治学、国際安全保障、ルール形成、さらにはバリアフリーや社会包摂の研究者が1つのキャンパスに集まった、大変ユニークな研究所です。大学の研

2022年、東大先端研主催による「高野山会議2022」での高野山金剛峯寺本坊 土室の間での弦楽四重奏 ©照井壮平



究所のほとんどは、特定の専門分野を深掘りします。いわば、弦楽、木管、

金管、打楽器、それぞれの楽器群のアンサンブルに相当します。それに対して、私たち先端研は、中規模ながらすべての楽器が揃い、しかも伝統的な楽器だけでなく電子楽器まで含めたオーケストラに例えられましょう。想いを伝えるメロディーリズムに応じて、自在に楽器の組み合わせを変えて聴衆の心を動かしたいと、つねに研鑽を積んでいます。多様な学理を融合させることは、言うは易く行うは難しの典型です。分野が多岐にわたるので、理屈だけで協力し合うことは、先端研の精鋭たちでも不可能です。すべての研究者の領域を深く理解することは、所長にすら不可能です。では、どうやって異分野の学問のアンサンブルを創り上げるのか？ その答えは「こころ」にあります。問題を解決してより良い社会を創ろうとする研究者をつなぐのは、「こころ」の共鳴、感動体験だと思えます。複雑な社会の問題に取り組む研究者にいま求められるのは、豊かな感性だと私は信じています。ですから、私たち先端研は、東京フィルと連携協定を結ばせていただき、「こころ」を豊かにする社会の創造を目指しているのです。

これからの科学技術は、人間が自然を支配するのではなく、人間が自然と共存するためにあるべきだと私たちは考えます。自然と通じ合う「こころ」は、日本人が大切に育んできたものではないでしょうか。先端研は、多様性を受け入れ自然と調和する哲学を育んだ高野山を舞台に、高野山会議を開催しています。ここでも、近藤薫特任教授が率いる東京フィルメンバーが、理性だけでなく感性での対話を促すために大活躍してくれました。高野山金剛峯寺のお台所で弦楽四重奏、奥之院の暗闇でのナイトコンサート、そして弘法大師肖像の前での弦楽オーケストラなど、高野山の環境が西洋音楽を包摂した波のなかで私たちの感性が高まり、未来の社会と科学技術の方向性を熱く議論することができました。

杉山 正和(すぎやま まさかず)／1972年静岡県生まれ。1995年東京大学工学部卒業。2000年同大学工学系研究科博士課程修了。同研究科助手、講師、准教授を経て、2017年東京大学先端科学技術研究センター教授。2022年より同センター所長を務める。専門は再生可能エネルギーシステム。

若葉が薫るころとなりましたが、  
皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。  
今月はセルゲイ・ラフマニノフ生誕150周年&没後80周年の  
二重アニバーサリーに因み、管弦楽曲3曲をお送りいたします。  
ぜひ作風の変化を考察しながらお楽しみください。  
引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

## 賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。  
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、  
改めて御礼申し上げます。

### オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

### 法人会員

#### 賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 会長 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キャノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫  
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING  
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶  
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー  
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)  
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)  
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)  
代表執行役 会長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)  
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店  
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ  
総長 都築 仁子

東急(株)  
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)  
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)  
代表取締役社長 日覺 昭廣

TOPPANエッジ(株)  
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)  
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス  
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ  
代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)  
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル  
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)  
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家  
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行  
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)  
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)  
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行  
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)  
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治  
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)  
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)  
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器  
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア  
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)  
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育  
取締役会長 岩佐 実次

## 後援会員

(株)アグレックス  
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレルソ たにぐちファミリークリニック  
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)  
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア  
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院  
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック  
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺  
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会  
代表理事 金子 真吾

(株)トレミール  
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス  
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)  
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)  
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)  
執行役社長 漆間 啓

## ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いっそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みただけましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行(郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

[https://www.tpo.or.jp/support/img/support\\_TPO.pdf](https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf)



### 【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当  
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階  
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp  
Tel 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

## 東京フィル 賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後とも社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

## 賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別	年会費1口	
オフィシャル・サプライヤー	詳細はお問い合わせください。	
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
パートナー会員	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラブノディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

## 【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野<sup>のぼた</sup>鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

## フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

## 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022(令和4)年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催しました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

## 留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

## “とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

### ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。

#### 【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

3月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

樋口 順子、村田 浩一、吉峯 裕毅 (ほか匿名希望11名) (五十音順・敬称略)

## 特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンラインワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

# 東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督  
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン  
Myung-Whun Chung

首席指揮者  
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ  
Andrea Battistoni

桂冠指揮者  
Conductor Laureate

尾高 忠明  
Tadaaki Otaka

大野 和士  
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー  
Dan Ettinger

特別客演指揮者  
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ  
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター  
Associate Conductor

チョン・ミン  
Min Chung

永久名誉指揮者  
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄  
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者  
Permanent Member and  
Honorary Conductor

大賀 典雄  
Norio Ohga

コンサートマスター  
Concertmasters

近藤 薫  
Kaoru Kondo

三浦 章宏  
Akihiro Miura

依田 真宜  
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン  
First Violins

小池 彩織☆  
Saori Koike

榊原 菜若☆  
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆  
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆  
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之  
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里  
Eri Urata

景澤 恵子  
Keiko Kagesawa

加藤 光  
Hikaru Kato

巖築 朋美  
Tomomi Ganchiku

坂口 正明  
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久  
Saku Suzuki

高田 あきの  
Akino Takada

田中 秀子  
Hideko Tanaka

栃本 三津子  
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀  
Miki Nakazawa

中丸 洋子  
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美  
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子  
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子  
Misako Fujise

松田 朋子  
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン  
Second Violins

藤村 政芳◎  
Masayoshi Fujimura

水島 路◎  
Michi Mizutori

宮川 正雪◎  
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆  
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆  
Mayuko Takase

石原 千草  
Chigusa Ishihara

出原 麻智子  
Machiko Idehara

太田 慶  
Kei Ota

葛西 理恵  
Rie Kasai

佐藤 実江子  
Mieko Sato

二宮 祐子  
Yuko Ninomiya

本堂 祐香  
Yuuka Hondo

山代 裕子  
Yuko Yamashiro

吉田 智子  
Tomoko Yoshida

吉永 安希子  
Akiko Yoshinaga

若井 須和子  
Suwako Wakai

渡邊 みな子  
Minako Watanabe

ヴィオラ  
Violas

須田 祥子◎  
Sachiko Suda

須藤 三千代◎  
Michiyo Suto

高平 純◎  
Jun Takahira

加藤 大輔◎  
Daisuke Kato

今川 結☆  
Yui Imagawa

杉浦 文☆  
Aya Sugiura

伊藤 千絵  
Chie Ito

岡保 文子  
Ayako Okayasu

曾和 万里子  
Mariko Sowa

高橋 映子  
Eiko Takahashi

手塚 貴子  
Takako Tezuka

中嶋 圭輔  
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子  
Tazuko Hirumi

古野 敦子  
Atsuko Furuno

村上 直子  
Naoko Murakami

森田 正治  
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	梶 彩乃 Ayano Kajii
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子○ Himeko Tsuji	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	五箇 正明 Masaaki Goka	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	平田 慎 Shin Hirata	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	クラリネット Clarinets	田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	塚田 聡 Satoshi Tsukada	チューバ Tubas	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	荻野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	林 直樹 Naoki Hayashi	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes		トランペット Trumpets	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	秋田 孝訓 Takanori Akita	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		森 純一 Junichi Mori		中村 勇輝 Yuki Nakamura	
				縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
				船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者  
Principal○副首席奏者  
Assistant Principal☆フオアシュピラー  
Vorspieler

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

## Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



## 役員等・事務局・団友

## 役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

## 事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

## 団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佑子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉 2023(令和5)年5月10日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra \*無断転載を禁ず(非売品)

## ～コンサートをお楽しみいただくために～

### ♪チケットの座席番号もチェック!

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

### ♪開演時間もチェック!

・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。  
楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。  
・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

### ♪開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック!

・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。  
・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。  
・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。  
・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

### ♪演奏中に気を付けたいことも同時にご確認も!

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

## 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策へのご協力をお願い

演奏会の開催にあたり、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い対策を講じております。引き続きのご協力をお願い申し上げます。



ロビーや客席内での混雑回避にご協力ください。

会場内ではマスクの着用が推奨されております

(マスクの着脱はおお客様のご判断をお願いいたします)。

入場時の検温・場内での咳エチケットのご協力をお願いいたします。

頻回の手洗い・手指の消毒をお願いいたします。

客席内は十分な換気・清拭を行っております。

ご協力、誠にありがとうございます。

Tokyo Philharmonic Orchestra  
Season 2023



こころの時間